

【教員紹介】

半澤 久(教授) 研究分野: 建築設備、建築環境工学	田沼 吉伸(教授) 研究分野: 鉄骨構造
下村 憲一(教授) 研究分野: 建築設計、デザイン	伊東 敏幸(教授) 研究分野: 建築仕上材料学、雪工学
星野 政幸(教授) 研究分野: 建築材料学	川人 洋志(教授) 研究分野: 建築設計、デザイン
武田 寛(教授) 研究分野: 鉄筋コンクリート構造	久保 勝裕(准教授) 研究分野: 都市計画(市街地整備)
鈴木 憲三(教授) 研究分野: 建築環境工学	谷口 尚弘(准教授) 研究分野: 住空間計画学
飯田 雅史(教授) 研究分野: 建築計画・建築構法計画	前田 憲太郎(准教授) 研究分野: 鉄骨構造
苫米地 司(教授) 研究分野: 雪氷工学	千葉 隆弘(講師) 研究分野: 建築構造
佐藤 孝(教授) 研究分野: 建築設計、デザイン	

【取得をめざせる資格】

- 建築士
- 建築施工管理技士
- 建築設備士
- 管工事施工管理技士
- コンクリート技士・主任技士
- インテリアプランナー
- 不動産鑑定士
- 宅地建物取引主任者
- インテリアコーディネーター
- 福祉住環境コーディネーター検定
- CAD 利用技術者試験
- 土地家屋調査士
- 技術士 ほか

【最近の就職先(抜粋・順不同)】

- 設計事務所・コンサルタント
山本理顕設計工場、古市徹雄都市建築研究所、北海道日建設計、久米設計、環境設計、日総建、アープ建築研究所、ナカヤマアーキテクト、安藤敏郎建築設計事務所、TAU 設計工房、創建社、大友設計、アトリエ・ブंक、アトリエ・アム、岩見田建築設計、岡田設計、CIS
- 住宅建設
大和ハウス工業、積水ハウス、セキスイハイム、スウェーデンハウス、三井ハウス、ダイア建設、レオパレス21、土屋ホーム、ホームトピア、ミサワホーム北海道、クワザワ、東日本ハウス
- 設備
新菱冷熱工業、高砂熱学工業、ダイダン、新日本空調、三建設備工業、斉久工業、大成設備、西原衛生工業所、第一工業、池田煖房工業、サンウェーブ工業
- その他
カンディハウス、ニトリ、郡リース、太陽工業、岩倉建材、大和工商リース、スミリン CAD システム、セキサン、エイジエック、ワットコンサルティング、エーアイエム、渥美工業、道内市町村、自衛隊、高校教員
- 建設業
大成建設、清水建設、大林組、竹中工務店、戸田建設、西松建設、三井住友建設、岩田地崎建設、伊藤組土建、中山組、丸彦渡辺建設、田中組、鉄建設、日本建設、新井組、松村組、鴻池組、松井建設、東海興業、共立建設、栗本建設工業、日成ビルド工業、坂本建設、国策建設、宮川建設、宮坂建設工業、荒井建設、旭製作所



Hokkaido Institute of Technology

学校法人 北海道尚志学園
北海道工業大学
空間創造学部
建築学科

☎ 006-8585 札幌市手稲区前田7条15丁目4-1
<http://www.hit.ac.jp/~archi/>



Design Work 08

HIT 北海道工業大学 建築学科作品集 2008 Architecture

学科紹介 1・2

卒業設計 3-8

建築設計デザインⅢ、建築設計演習Ⅴ 9・10

建築設計デザインⅡ、建築設計演習Ⅳ 11・12

建築設計デザインⅠ、建築設計演習Ⅲ 13・14

建築設計演習Ⅱ 15・16

建築入門演習、建築デザイン演習Ⅰ 17

建築設計演習Ⅰ、建築エンジニアリング演習Ⅰ 18

インテリアデザイン演習、造形デザイン演習 19・20

修士設計 21・22

空間創造学部 建築学科

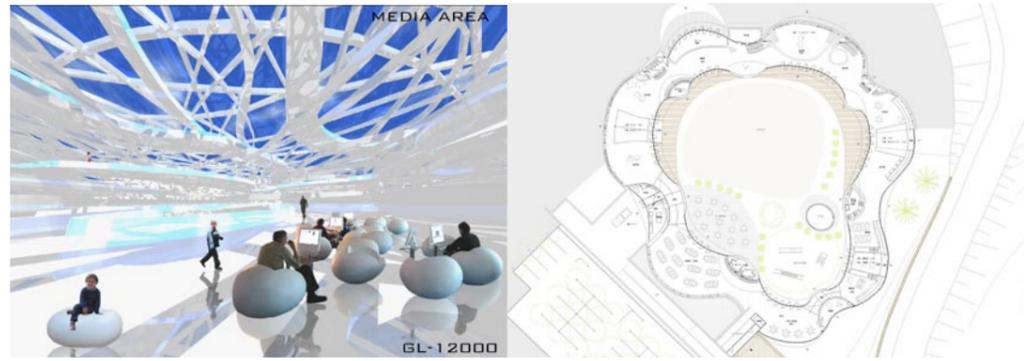
建築学科は3つのコースで構成されています。「空間デザインコース」では、建築の空間デザインを風土、歴史、文化などを踏まえて創造すると同時に快適性や安全性を確保した空間を創出するための実践的な知識を身につけるための教育を行います。「住環境システムコース」では、建築環境において健康かつ快適な生活環境を創出するための建築環境・設備技術を習得させ、雪国の自然を生かした新エネルギーシステムや21世紀に求められる地球環境に配慮した住環境システムの実践的な知識を身につけるための教育を行います。「エンジニアリングコース」では、建築空間の構造的な安全性、耐久性、信頼性、快適性を創出するための建築構造・施工技術全般にわたる実践的な専門知識と設計技術を持つ技術者ならびに雪国特有の建築における課題に対応できる知識を身につけるための教育を行います。

建築設計

建築をトータルに考える

未来のデザイナーとエンジニアをめざしてー充実した教育体制によりプロフェッショナルを育成します

建築設計の基礎教育として図面を読む、描く、立体的に把握することを演習した上で、住宅や美術館の課題をとおして、建築の計画と空間の創造と設計製図を学びます。続いて、空間デザインコースの学生は、「建築と場」、「集合」そして「複合」へと徐々に複雑なプログラムの計画設計を進め、住環境システムコースおよびエンジニアリングコースでは、課題に構造、材料、設備計画にも着眼点を置き総合設計を目指します。



Topics

講義・演習以外にも
多彩な活動を行っています

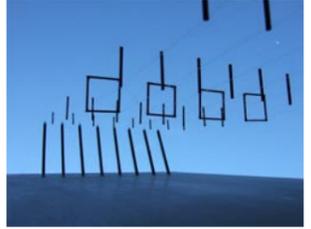
海外に飛び出す授業、 建築学科ヨーロッパ研修旅行

1989年「イタリアとスイスの建築探訪」を建築学科企画の海外建築研修旅行の試行を皮切りに、1995年より毎年のようにヨーロッパの建築と都市を訪ねてきました。これまでヨーロッパ現代建築、ロマネスクの旅、建築の源流を探るイタリア・ギリシャの旅、近代建築とガウディの旅、オランダ・ベルリンの現代建築、スイスの現代建築などのテーマに沿って、学生は、体感する建築・都市の学習を楽しんでいます。2008年は「芸術と建築の旅」と題して、イタリアのミラノ、スペインのバルセロナ、フランスのパリを廻ってきました。特に、バルセロナではサクラダファミリア大聖堂に代表されるガウディ建築を中心に、構造的合理性と物語性に満ちた建築を体感してきました。写真は、コロニア・グエル教会地下聖堂（ガウディ作）をバックにした参加学生です。



学生作品、ストラクチャー模型、 有名住宅の模型など 建築作品展開催

2008年6月20日～28日の約1週間、学生達が建築設計演習や建築設計デザイン等の授業で行ってきた課題の優秀作品と、4年生がゼミ活動で制作したストラクチャーデザイン模型・有名建築家の住宅模型作品の展示会「建築作品展」を開催しました。ストラクチャーデザイン模型では、サクラダファミリア大聖堂（ガウディ作）の構造模型を実際にチェーンを用いた制作。また有名建築家住宅模型では、20世紀の名建築と言われるミース・ファン・デル・ローエのファンズワース邸や、ル・コルビジェのサヴォア邸などが展示されました。この様に模型をつくることによって、建築の構造やデザインが理解できるので、学生達は一生懸命励んでいます。



共通科目

一般教養科目

文章表現法
論作文技法 I・II
基礎物理学
英語 I～V
建設と経済
法学
心理学
マネジメント基礎
技術者の倫理
体育実技 I・II
他

学部コア科目

基礎数理解演習
力学基礎演習
地球生態学
地球環境学
北国の暮らし
空間創造概論
空間創造演習 Ia、II

専門基礎教育科目

情報処理 I、II
情報処理 I、II 演習
微分積分学
CAD演習 I、II
応用数学
建築情報処理演習
建築グラフィックデザイン演習

コース共通科目

建築の社会
西洋建築史
建築計画原論
建築一般構造
空間創造演習 Ib
建築設計演習 I、II
寒地建築設計法
建築法規 I、II
日本建築史
建築計画 I、II
建築熱・空気環境
建築熱・空気環境演習
建築設備
木構造
建築構造力学 I、II
建築構造力学 I 演習
建築材料 I、II
建築施工 I、II
建築雪氷工学
建築総合演習 I、II
建築演習
工学概論

Design

空間デザインコース

●コース科目

建築と文化
建築設計デザイン I
造形デザイン演習
都市デザイン II
建築計画 III
建築構造デザイン
建築構造デザイン演習
建築設計デザイン II、III
他

建築空間を創造する 建築、インテリア、造形

大学の建築設計課題では実寸感覚をつかむことは難しいものです。造形色彩演習では、原寸の椅子のデザインと制作作業をとおして実寸スケールおよび体感的造形力を養います。またインテリアデザインでは、商業空間などを例に作業をとおして目的と空間、材料、色彩、照明などの理論を身につけます。

都市と 建築の関係・ルールを認識

都市空間を再編するには、多くの関係者が「協働」することが不可欠です。都市計画の演習では、都市と建築の関係を理解し、一つひとつの建築行為が都市空間を変え、人々の生活に影響を与えていく実態に対する認識を深めます。また、都市計画に関するルールを、そのルールができた理由を理解しながら修得します。



Environment

住環境システムコース

●コース科目

建築住環境実験
設備設計演習
設備施工
エネルギー利用計画
住宅設備
都市設備
暖冷房・換気設備
建築音・光環境演習
他

快適で安心・安全な暮らしを 創造し、環境と エネルギー問題を考えます

人々が快適に安全に暮らし、また仕事をするには、建物の断熱や明るさ、静けさなど環境工学に関する性能と、冷暖房・換気・給排水衛生・照明など建築設備の適切さがバランスよく両立することが必要です。地震災害時の不便さを思い出してください。電気・石油・水などのエネルギー供給がなければ、建築物は

壊れなくても機能しなくなります。一方、エネルギーの多消費は建築物の経済性を損ない、更には地球温暖化をもたらします。住環境システムでは、住みやすく働きやすい建築環境を創造するとともに、建築物の省エネルギー化とエネルギーの有効利用システムを支える基礎教育を行っています。



Engineering

エンジニアリングコース

●コース科目

建築構造計画
鋼構造
鋼構造演習
建築構造材料実験 I、II
建築構造力学 III
建築維持保全
鉄筋コンクリート構造
建築設計演習 III～V
他

現場で建築と向き合う

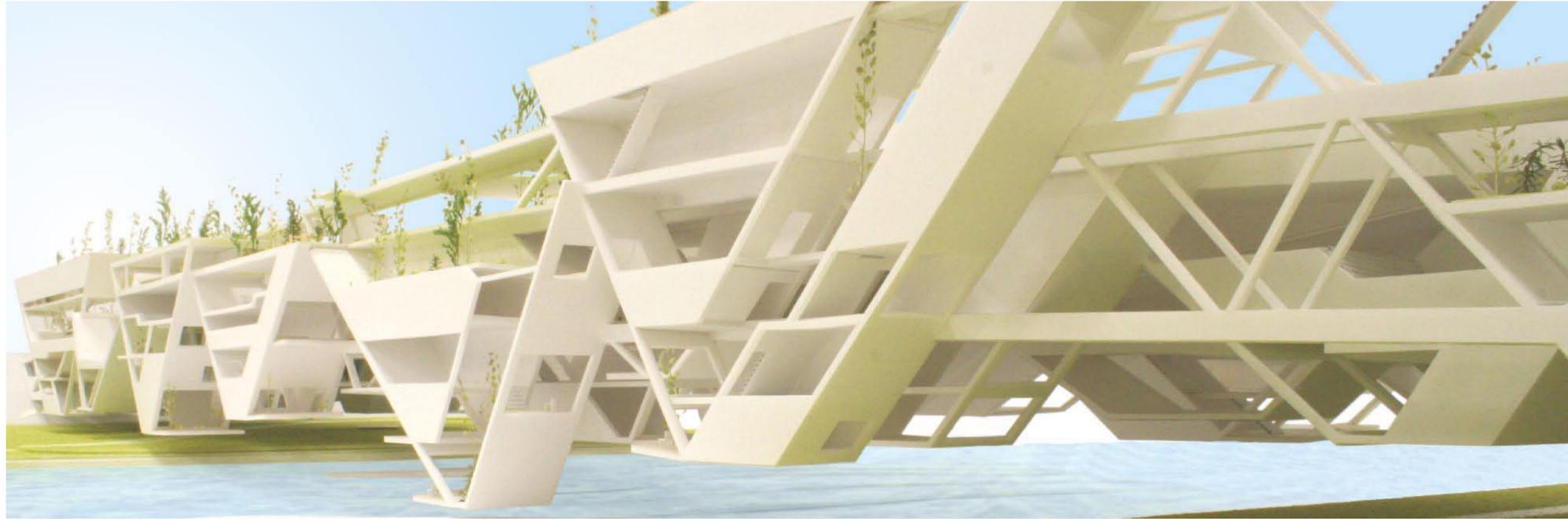
雪や寒さにも対応できる建物を造りあげるエンジニアには、材料、構造、施工および保全に関する幅広い知識と高いモラルが求められます。特に、構造安全性と高い耐久性を確保するには、構造分野と材料施工分野の専門的な技術が不可欠であり、それら技術を兼ね備えた人が現場で輝くエンジニアとして活躍できるものです。本コースでは多くの卒業生の協力を得て、施工現場や鉄骨工場あるいはモデルハウスを見学研修し、現場で建築と向き合うことの大切さを理解させるとともに、協働作業を伴う授業を多く取り入れ、協調性と人間性に配慮した学生指導を行っています。

安全・快適 美の和音を形にする演習群

建築物に求められる基本3要素(安全・快適・美)の調和を常に意識した演習課題を実施しています。部材に力が加わったときの変形や破壊を目で確かめるとともにその基本理論を理解する演習/手練りコンクリートの試験体の強さを調べる実験/鉄筋を組んで型枠を作って作製したコンクリートの梁を曲げる試験/木造のミニ建物を実際に組み立てて荷重の伝わり方や断熱の仕組みを理解する実習/冬期に損失する熱量や地震及び台風にも耐える壁量を計算で確認し機能的で快適で綺麗な住宅を設計する演習などを行っています。

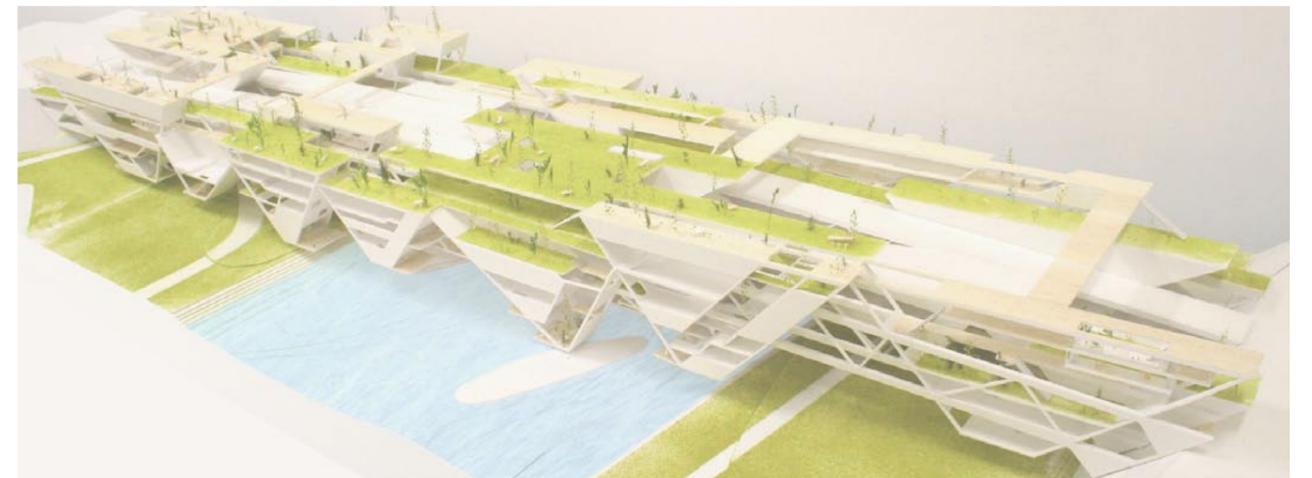
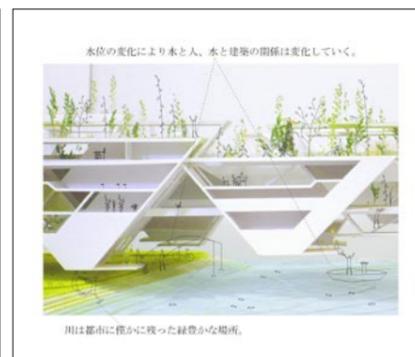
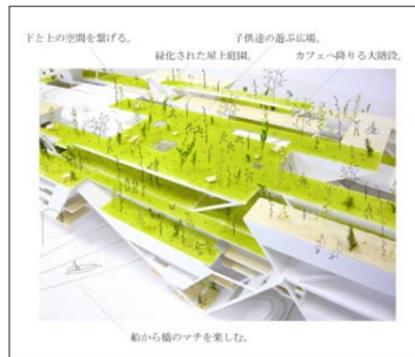
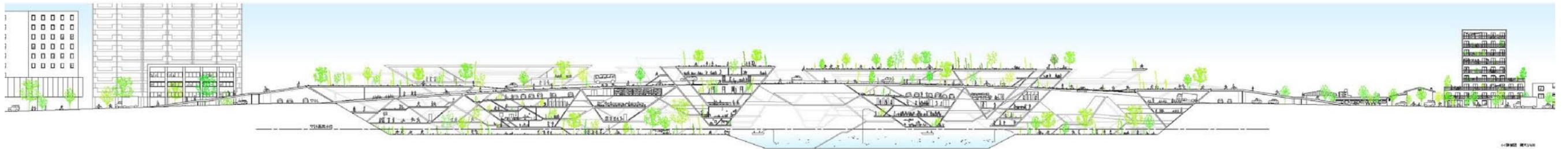


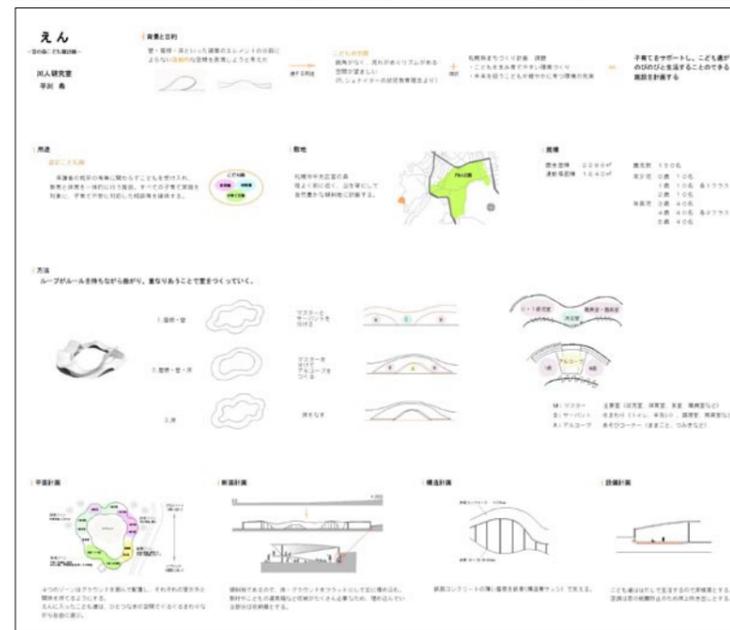
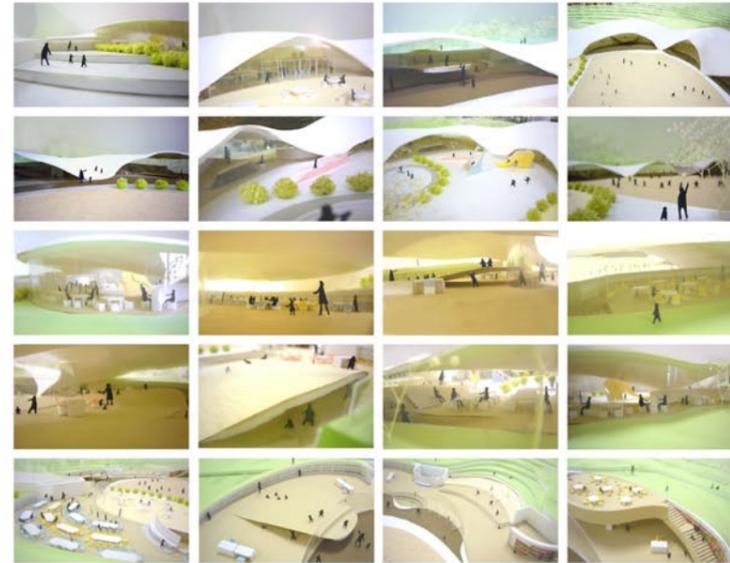
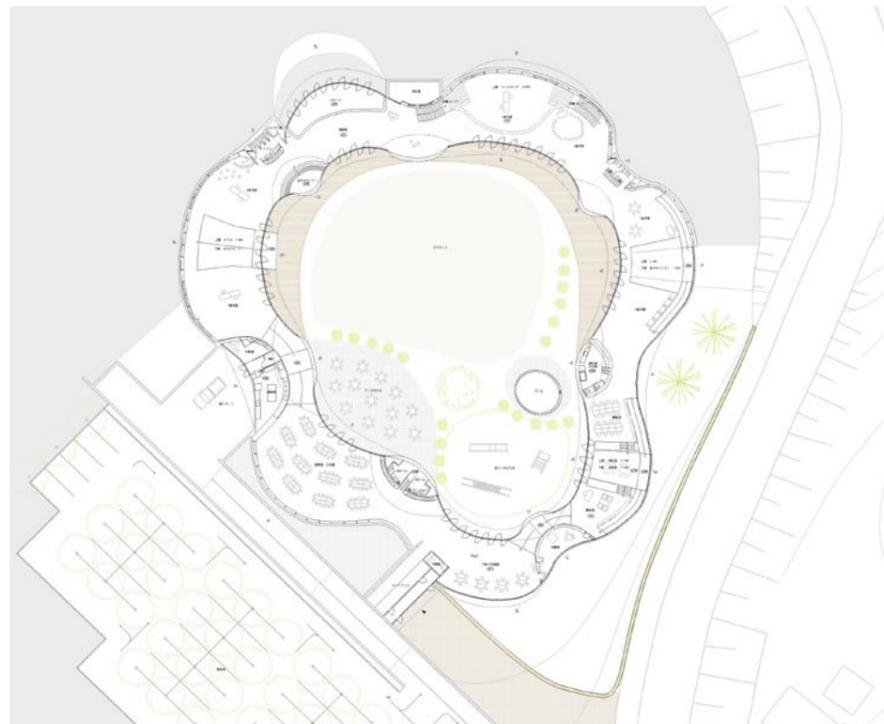
(注) 9 ページからのコース名およびカリキュラム名は旧建築学科のものです。



<作品のコンセプト>

現在、都市に存在する多くの橋は「移動」するためのものでしかなく、有効的に利用されているとは言えない。そこで、本計画では橋に建築を挿入することで、川によって分けられていた空間同士をつなげ、周辺地域の活性化を図るとともに、「移動」する人と「停滞」する人が交わる魅力的な橋を創出することを目的とする。

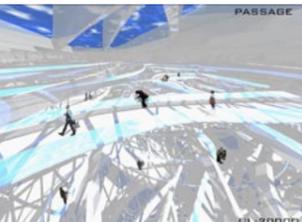
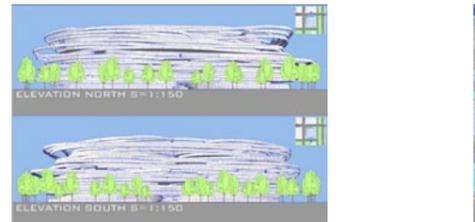
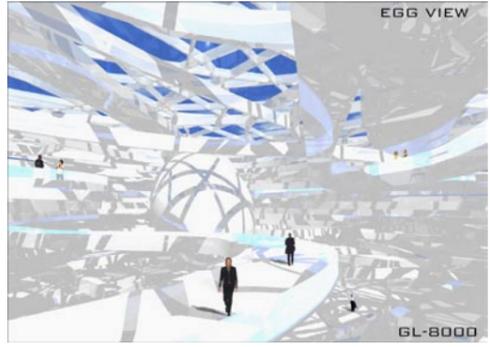
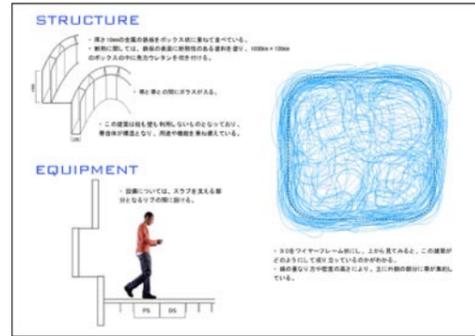
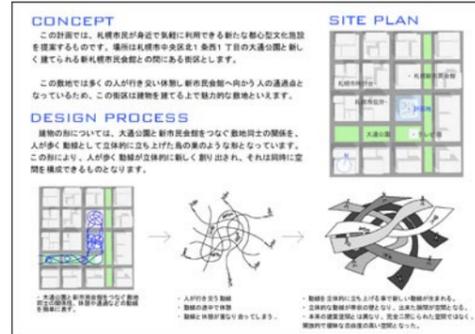
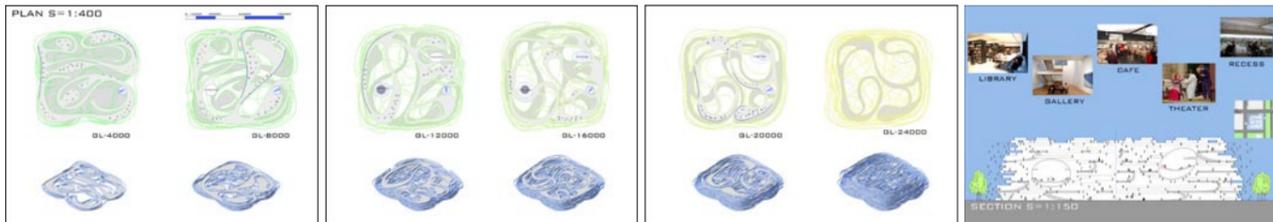
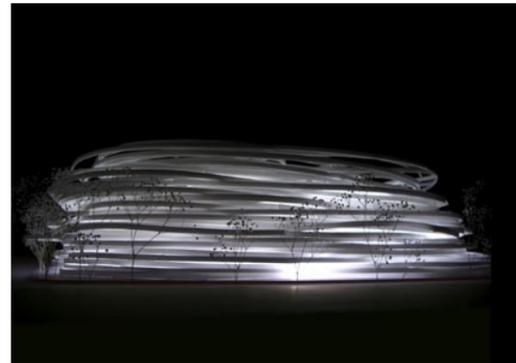
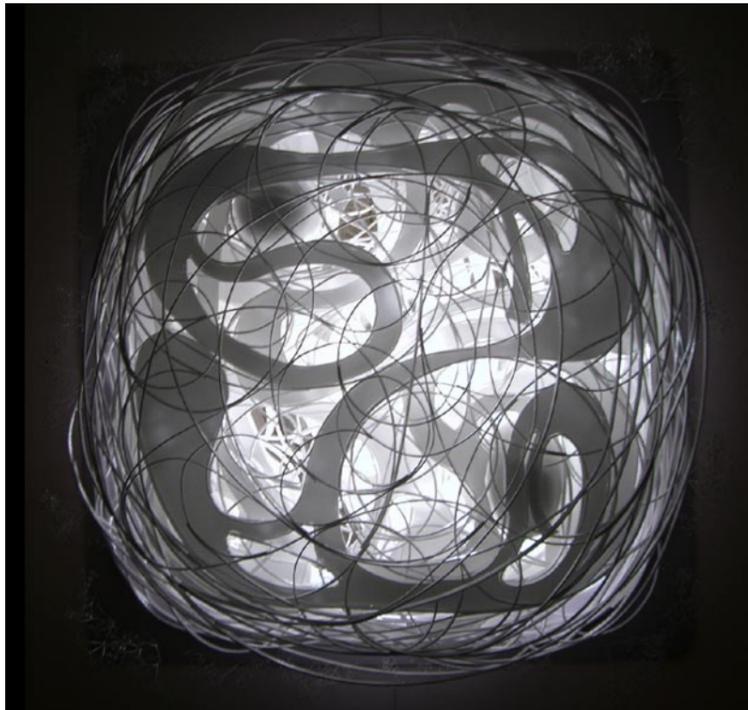
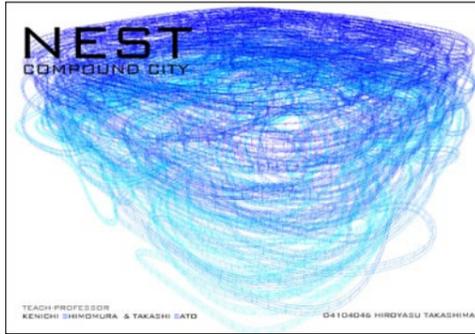




<作品のコンセプト>

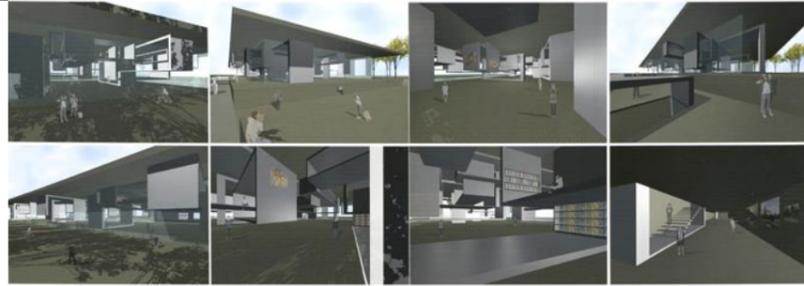
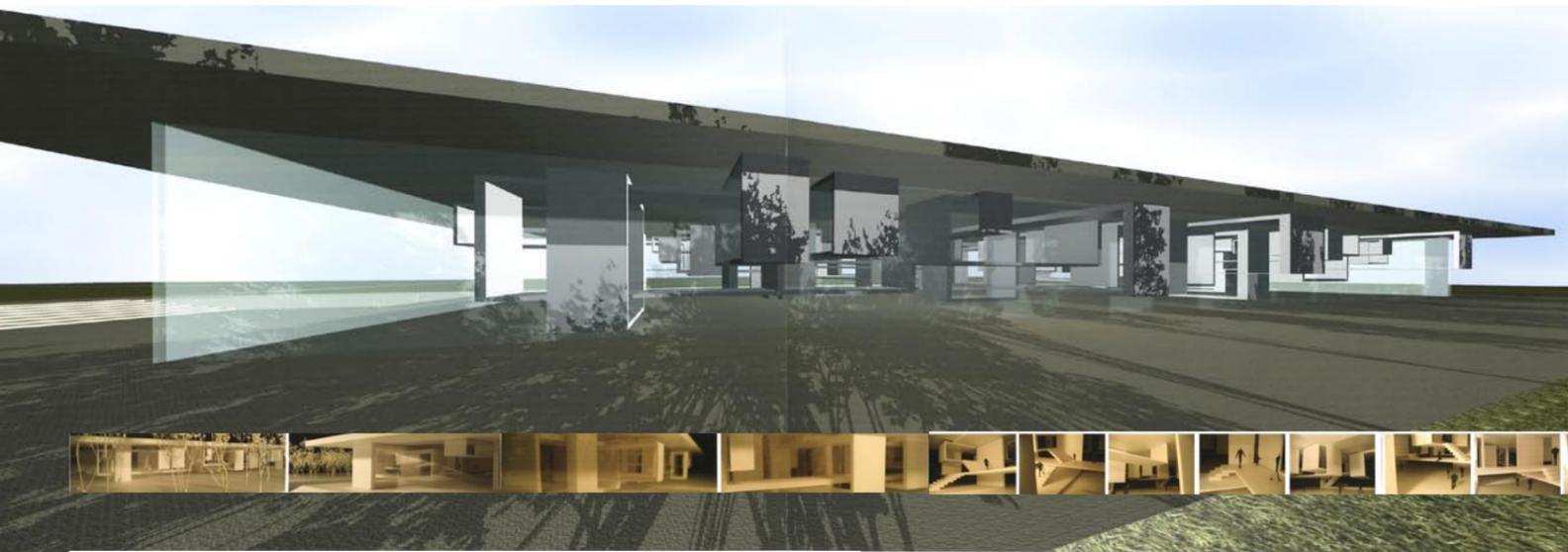
床・壁・屋根といった建築のエレメントの文節によらない流動的な空間を表現しようと考えた。そのような空間に適している用途を模索していたところ、こどもの空間は直角や鋭角がなく、流れがありリズムがある空間が望ましいとされていることを知った。また、現状としては、札幌新まちづくり計画の課題としてこどもを育てる環境の充実が挙げられており、子育てのための場が求められている。

以上のことから本計画では、子育てをサポートしこどもたちがのびのびと生活することのできる施設を提案する。

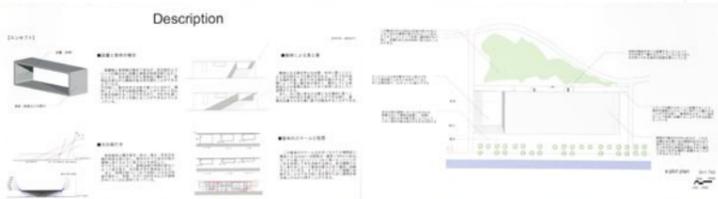


<作品のコンセプト>

この計画は、札幌市民が身近で気軽に利用できる新たな都心型文化施設を提案するものである。敷地は、多くの人が行き交い休憩し、新市民会館へ向かう人の通過点となっている札幌市中央区北1条西1丁目とする。建物は大通公園と新市民会館をつなぐ敷地同士の関係を、人の動線として立体的に立ち上げ鳥の巣のような形とすることで、人の動線を立体的に新しく創り出し、それは同時に開放的な空間を構成する。こうすることで「開放的」で「高い自由度」をもつ複数の帯が何重にも重なり合った開放的で曖昧な新しい建築空間ができる。



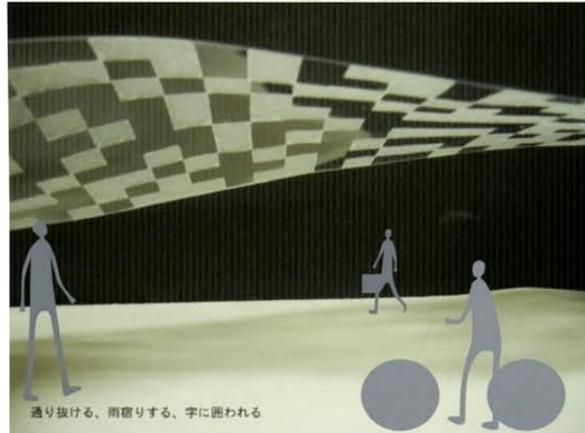
課題 title: 「Description」
name: 高田 正行



建築デザインコース 3年後期
建築設計デザインⅢ

■ 課題
「複合施設の設計」
手稲駅北口にある手稲区役所隣接地を敷地とし「図書館+カフェ+（美術館または音楽ホール）」を複合した施設（延べ面積5,000m²程度）を計画することを求めている。敷地の特性を読み取りながら複合の可能性を追求し、より独創的かつ機能的な空間を実現させるために与条件には、柔軟性をもたせた。提出図面には、配置図、平面図、立面図、断面図、コンセプトスケッチ、模型写真、透視図を効果的に盛り込むこととした。また課題制作期間をおよそ2ヶ月とし、構想から表現に至るまで、これまでの演習で身につけた知識、技術を密度高く盛り込むこととしている。

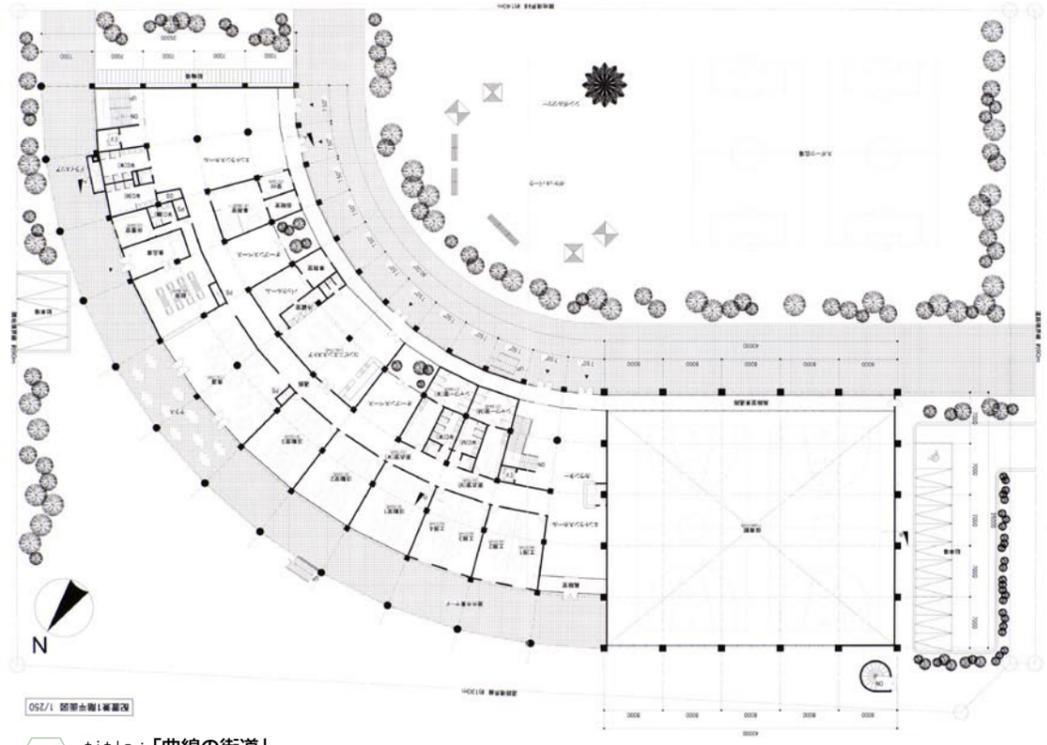
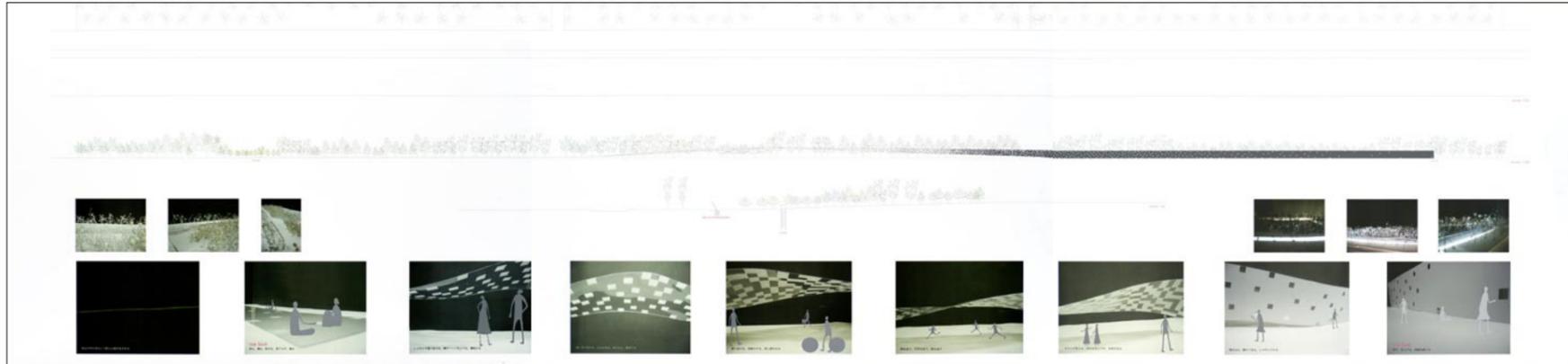
担当教員
川人 洋志 教授
非常勤教員
伊達 昌広
畠中 秀幸
保科 文紀



通り抜ける、雨宿りする、字に囲われる



課題 title: 「つづく」
name: 目黒 まゆみ



課題 title: 「曲線の街道」
name: 西島 雅人

建築エンジニアリングコース 3年後期
建築設計演習V

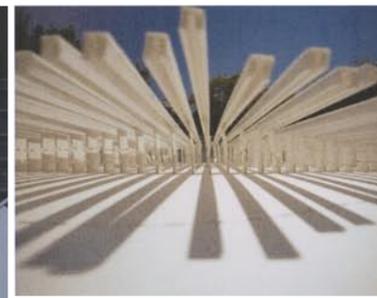
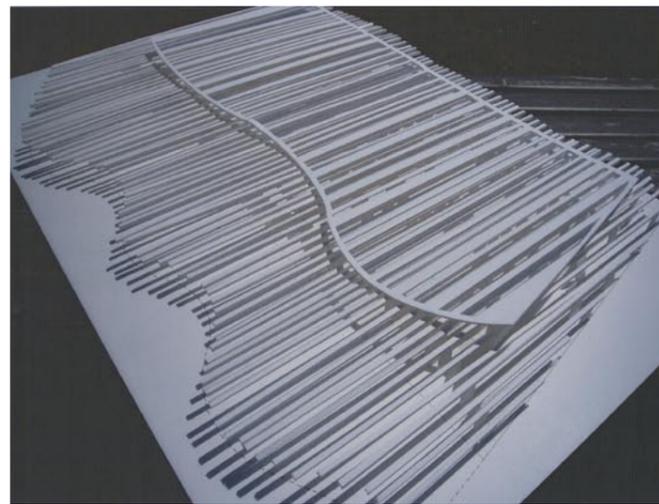
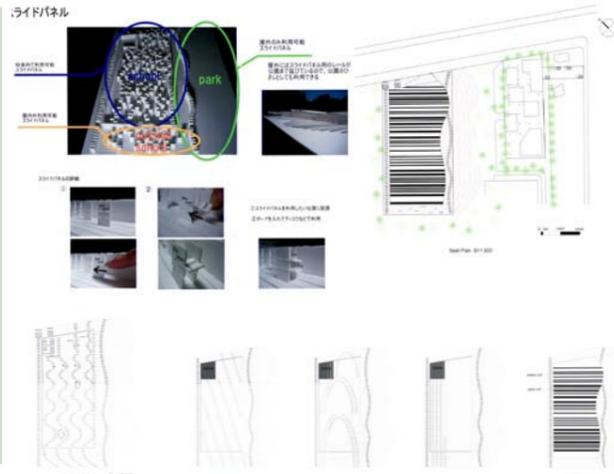
担当教員
半澤 久 教授
伊東 敏幸 教授
非常勤教員
高松 康二
湊谷 みち代

■ 課題
「複合施設の設計」
北海道工業大学の学生らしい活動を支援するための学生会館（6,000～7,000m²）を計画することを求めている。与条件として学生が1ヶ月程の期間、何らかの自立的なプロジェクト（ものづくり・ことおこし・トレーニングなど）に没頭できるような機能を持つものとし、構造はRC造6階建て（一部鉄骨可）とし、建物は宿泊部門（2～6階は宿泊室など）と活動部門（体育競技室と工房など）を明確に分離し、適切な動線確保するとともに、バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たすこととした。

■課題2

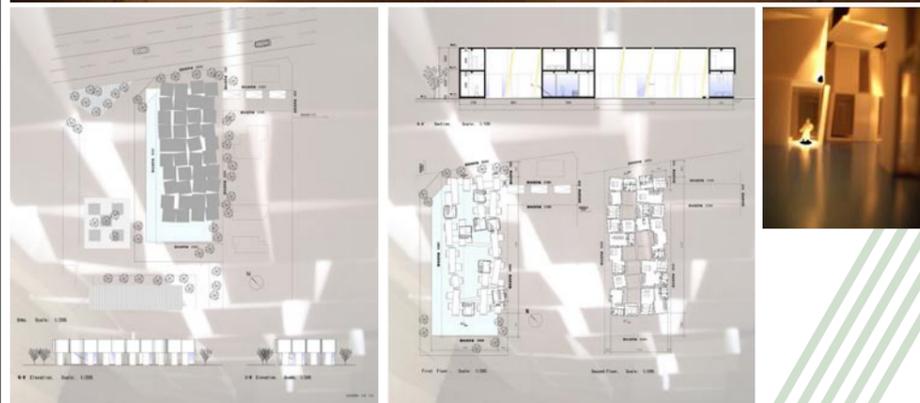
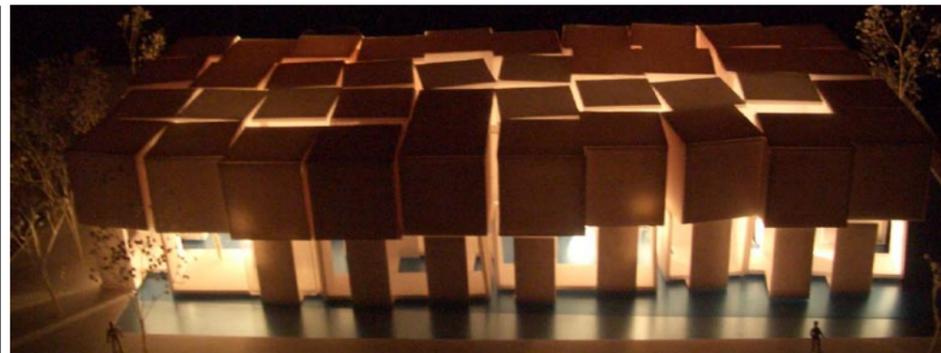
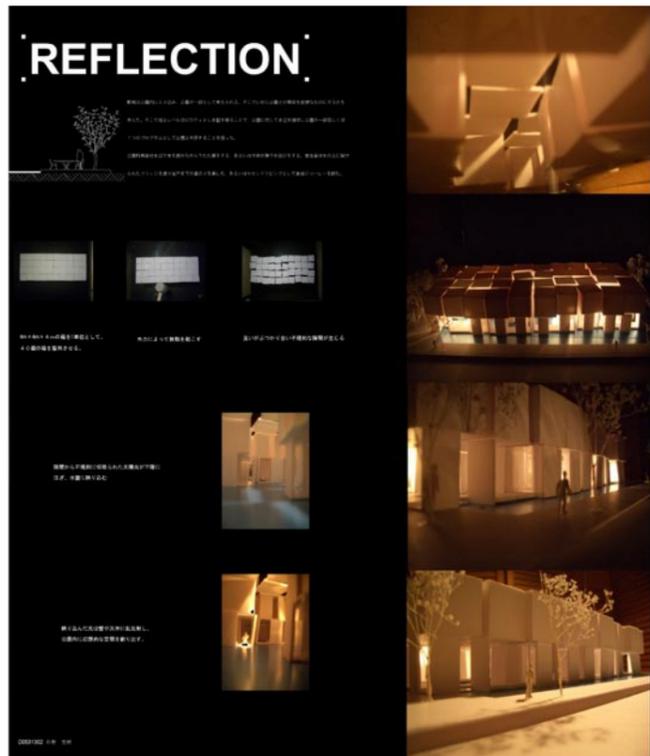
「小規模小学校」

昨今、教育に関する重要性が様々な方面から唱えられている。そして教育に関する新しい提案や実験が始まっている。今回の課題「小規模小学校の設計」では、教育の場として、こどもたちの集まる場として、新しい環境空間の構築を行なう。計画地は、第1課題に隣接する敷地とし、「場の計画」とともに、空間単位とその集合により出現する空間にねらいを特化し、個から全、全から個の計画を学ぶ。



課題2 title: 「Slit school」
name: 室賀 香織

課題1 title: 「REFLECTION」
name: 丹野 宏柄



建築エンジニアリングコース 3 年前期
建築設計演習Ⅳ

■課題

「集合住宅」

高齢者・身障者に対応した集合住宅の提案を求める課題。①壁式構造の理解と壁量計算の実践 ②空調・給排水設備計画との整合 ③用途に応じた材料選定 ④関連法規の理解、を目的としている。

担当教員

苫米地 司 教授

久保 勝裕 准教授

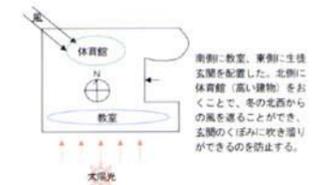
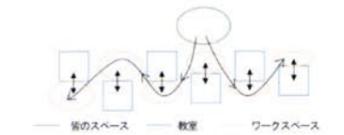
非常勤教員

遠藤 崇能

新貝 孝之

コンセプト

今回の課題では1学年1クラス20人という少ない生徒数だったことから、他の学年との交流を自然とできるようにすることを考えた。まず教室・ワークスペースを、1学年ずつそれぞれのクラススペースの空間を明確にさせた。生徒たちが、「ここは自分たちの基地」と思い、楽しく学校生活を送れることを考えた。しかし、それぞれの教室に行くには他のクラスのワークスペースを通過する必要がある。そのため他の学年との交流が自然とでき、他の学年の気配をすぐ近くで感じられるようにした。

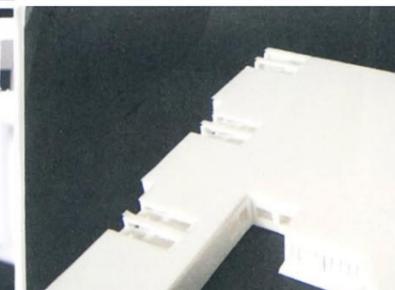
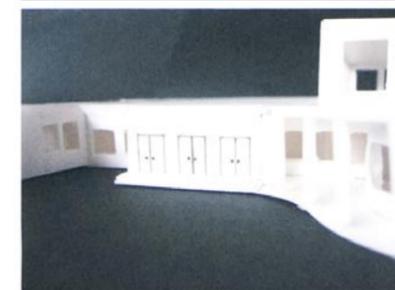
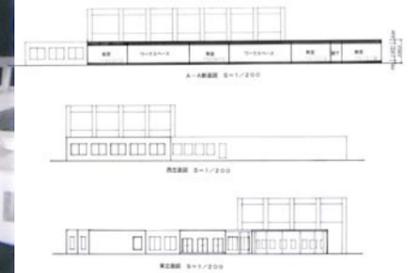
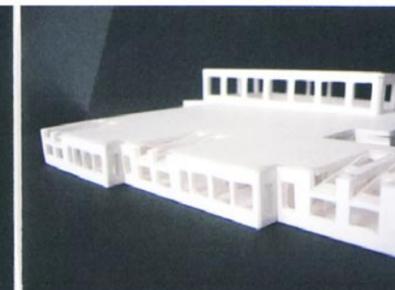


積雪寒冷地への提案

積雪寒冷地への提案として木構造とした。小学校は昼間だけの使用になり、夜から朝にかけては当然校舎内は冷え切ってしまう。しかし木は、外の温度・湿度の変化の影響を受けにくい性質があるため、冬の寒さも校舎内では少なくすることができる。木は熱伝導率が低いため、急激な温度変化がない。木に触れていると、触れている部分の体温が上がり温かみを感じることができる。しかも、調湿効果があるため、湿度が高い夏にも効果的な役割を果たす。

基本的には無落雪の屋根形状である。ワークスペースの奥に教室を配置し、南面からの光を直接取り込むことができない場所では天窓を取り付け、直接光を取り込んだ。しかし、冬は雪で窓が覆われて曇ってしまうため、天窓を取り付けた部分のみ雪が落ちるようにした。そうしたことにより、てこぼことした形状となり見た目にも目を引くものとなった。

課題 title: 「Our Place」
name: 篠原 沙樹



建築デザインコース 3 年前期
建築設計デザインⅡ

■課題1

「個と全、集合：8戸の低層集合住宅：SOHO」

計画地は、大型量販専門店群の集積地であり、生活関連施設や住宅地のはざまにある住商混合の地区の「場の読み取り」と「場の計画」を念頭にもち、低層集合住宅の設計を行なう。

集住にあっては、空間単位とその集合により出現する空間をとらえ、個から全、全から個の計画を学ぶ。そして集住により発生するプライベートとパブリックの調停と魅力的な空間、集住体としての豊かな生活空間と環境をつくる。

担当教員

佐藤 孝 教授

非常勤教員

赤坂真一郎

小西 彦仁

豊嶋 守



課題1 title: 「ノンヒエラルキー～現象を受け入れる美術館～」
name: 安澤 和馬

建築デザインコース2年後期 建築設計デザイン I

■ 課題1

「美術館の設計」

道立近代美術館の駐車場2,000m²を計画地として、美術館(1,500m²)を設計する。今回はガラス工芸の展覧会が開かれている機会に、ガラス工芸の作品にじかに触れ、また美術館建築の機能や構成を見学しながら、自由な発想と解釈でガラスの作品にふさわしい美術館をデザインする。図面や模型による表現と、自分の設計意図・コンセプトを的確に伝えるためのプレゼンテーションが求められる。

担当教員

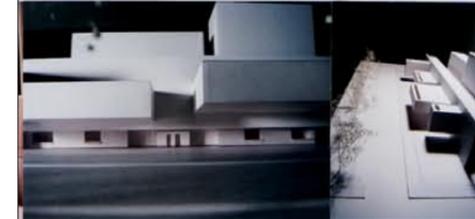
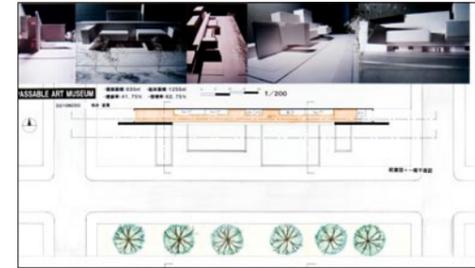
下村 憲一 教授

非常勤教員

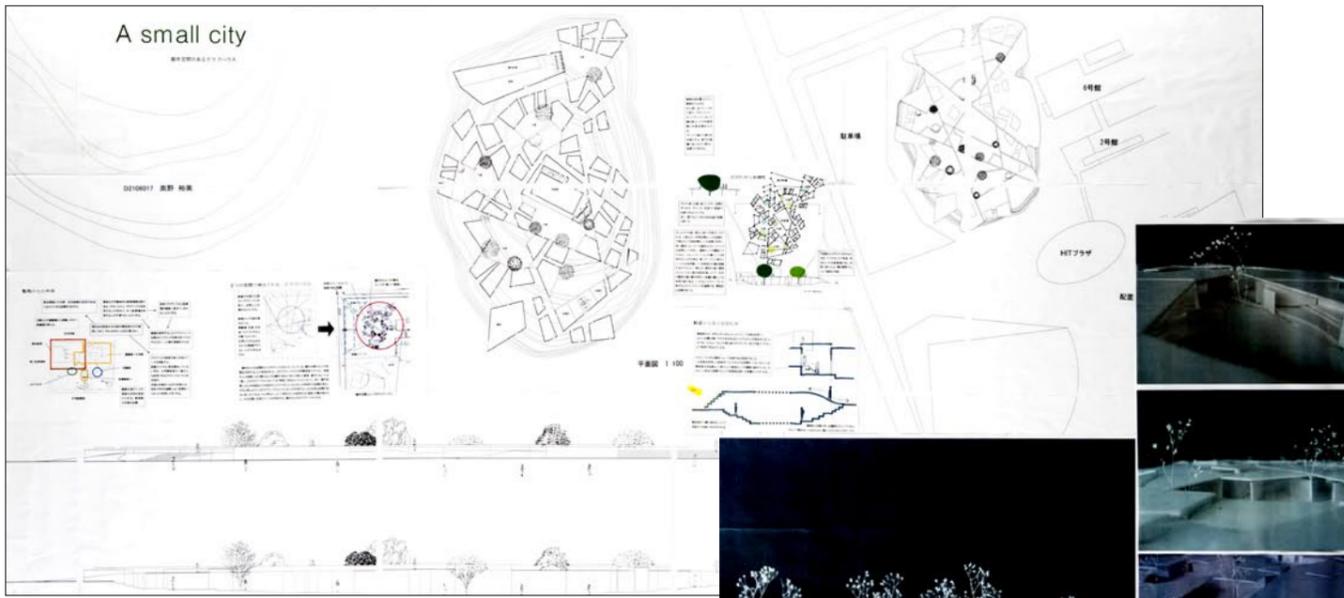
植田 暁

小西 彦仁

鈴木 理



課題1 title: 「PASSABLE ART MUSEUM」
name: 寺井 宙貴



課題2 title: 「A small city 都市空間のあるクラブハウス」
name: 奥野 裕美

■ 課題2

「本学クラブハウスの設計」

本大学構内の第一駐車場付近を敷地として、学生のクラブ活動のための施設群を設計する。この課題は、身近にある既存クラブハウス施設群の現状を観察調査して、対象への理解と評価を自ら行い、現況施設に対する問題意識をもって新しいクラブハウスを提案することが求められる。課題への取り組み姿勢と、自らが描く施設プログラムに基づいて建築形態をデザインしていくプロセスを実践する。



課題2 title: 「Maze」
name: 下沢 李緒



建築エンジニアリングコース2年後期 建築設計演習Ⅲ

■ 課題

「商業地域に建つ大規模事務所ビル」

札幌市の中心市街地(札幌駅南口から南6条通りまでの、50m×50mにおいて、ある会社の貸事務所ビルを計画する。計画に当たり、①その事務所ビルにどのような会社・企業が入るか決めること ②敷地周辺に対して開放された、建築物との一体的な利用にも配慮した広場を設け、市民にも気軽に利用できる快適な外部空間を計画すること ③事務所部分、店舗部分の異なる機能を適切に結びつけた計画とすること ④ビル来客者のことを考慮し、地下駐車場を設けること ⑤建坪率の限度は80%(ただし、角地の場合は10%加算。さらに、防火建築物の場合は10%加算)。容積率の限度は800% ⑥積雪寒冷地域ということで、冬期間のことも考慮することが望ましい。

担当教員

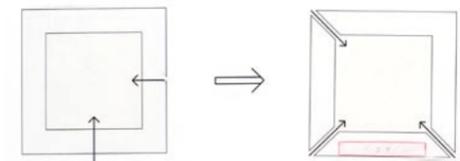
鈴木 憲三 教授

谷口 尚弘 准教授

非常勤教員

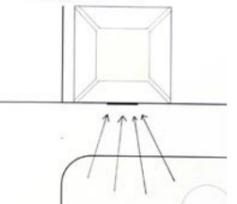
中館 誠治

課題 title: 「Separation ~分離」
name: 大月 雄大

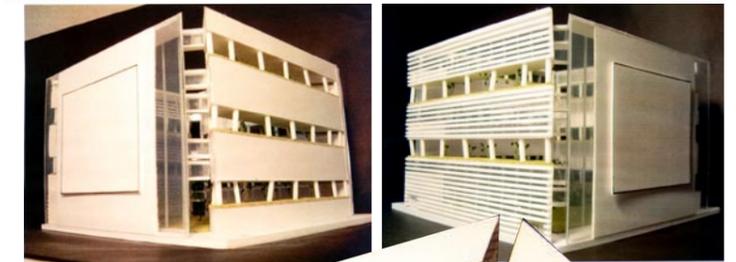


ここでは、建物の中央を縦に切ればオープンスペースに入ることができる。アトリを形成して、その空間に開放感を出す。そして、この空間でも、コア空間を形成する。

建物の中央を縦に切ればオープンスペースに入ることができる。アトリを形成して、その空間に開放感を出す。そして、この空間でも、コア空間を形成する。



建物の中央を縦に切ればオープンスペースに入ることができる。アトリを形成して、その空間に開放感を出す。そして、この空間でも、コア空間を形成する。



■課題 1

「木造小住宅の設計」

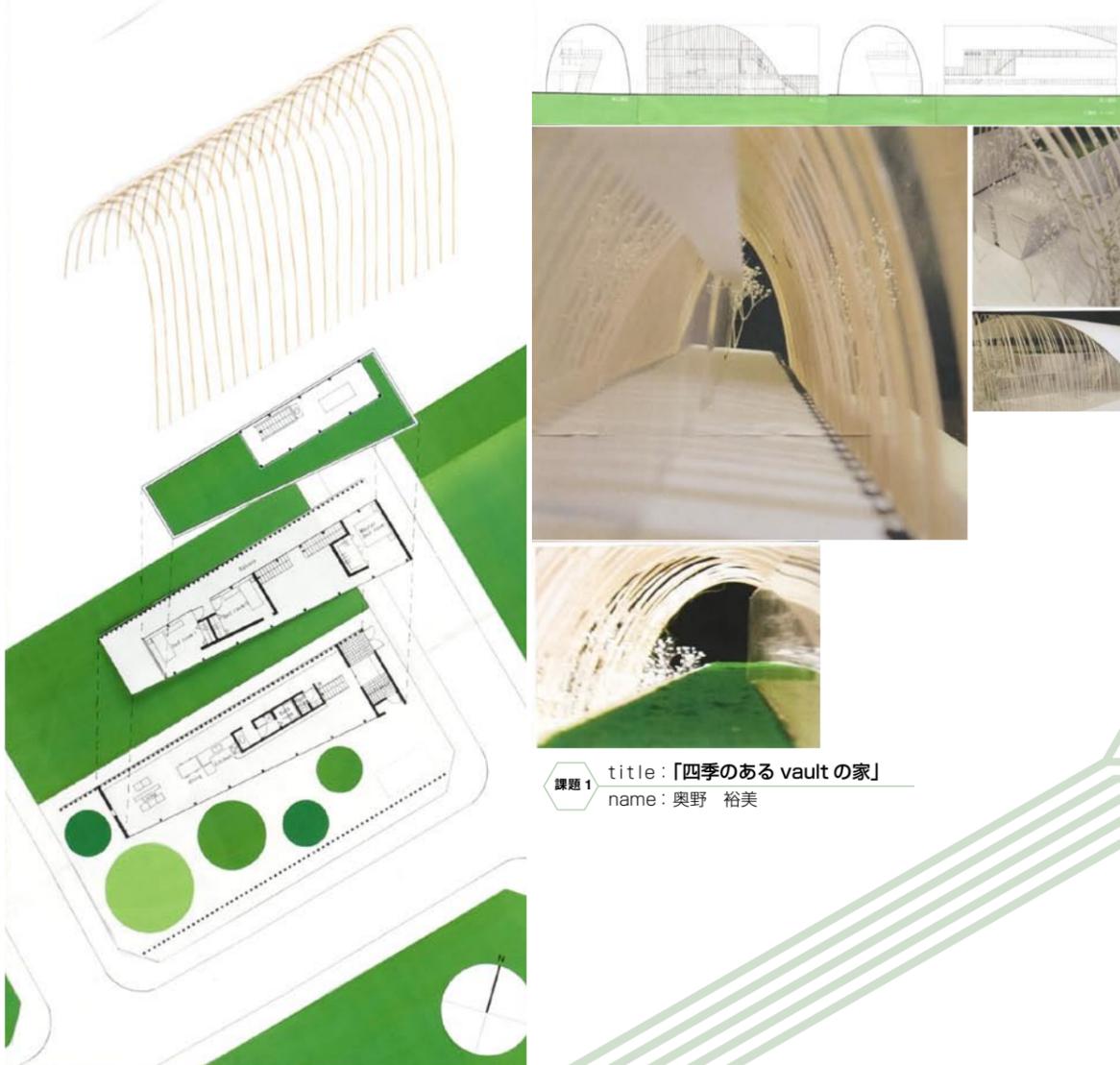
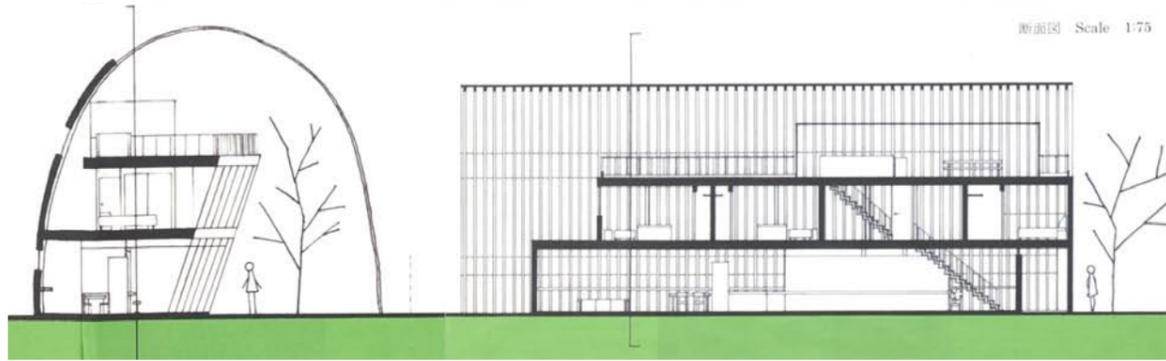
本学近隣の公園に隣接した戸建住宅地に敷地周囲の状況に配慮しながら学生それぞれの独創性を盛り込んだ木造小住宅(延べ面積 150m²程度)を計画することを求めている。具体的な条件として、家族 4 人の住居にふさわしいスペースとすること、自動車 1 台、自転車 3 台を収容するスペースを設けること、建物の地上部構造は、木造とすることとしている。提出図面として、配置図、平面図、立面図、断面図、コンセプトスケッチ、模型写真、透視図を A1 版 2 枚に盛り込んだものとした。

担当教員

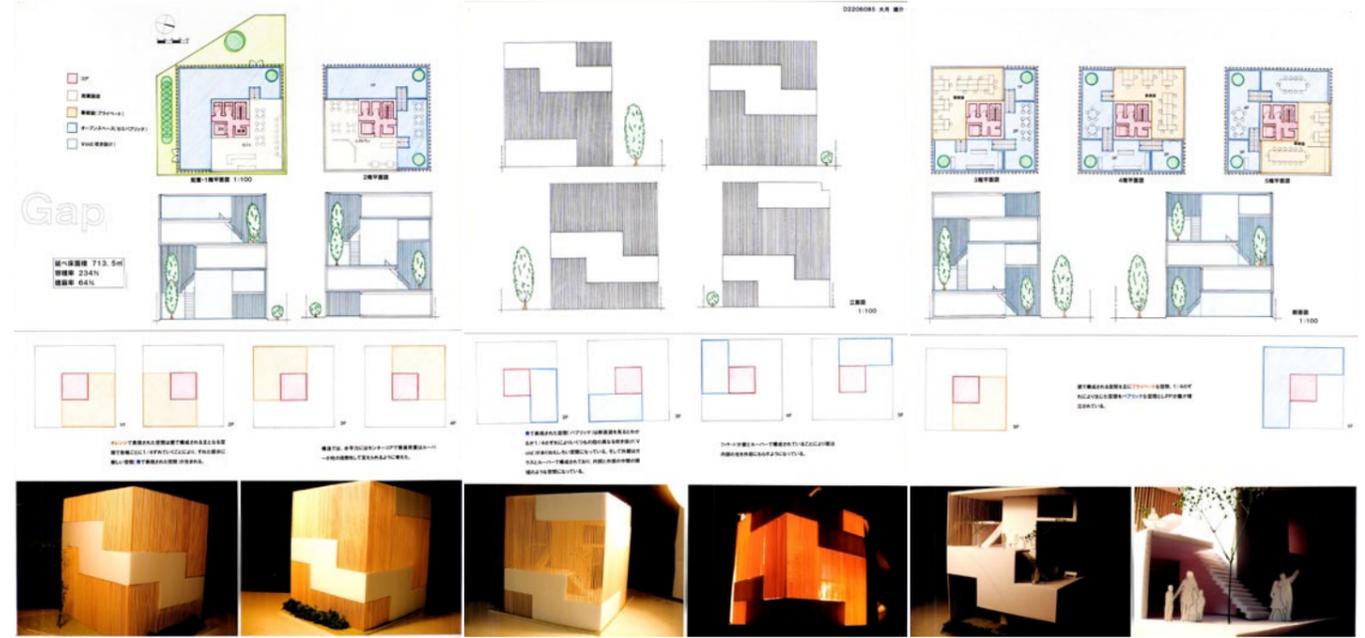
川人 洋志 教授

非常勤教員

菊池 規雄 中舘 誠治
北浦 丈士 濱田 文人
伊達 昌広 平尾 稔幸
中田 稔 五十嵐 淳
(ゲストクリティック)



課題 1 title:「四季のある vault の家」
name: 奥野 裕美

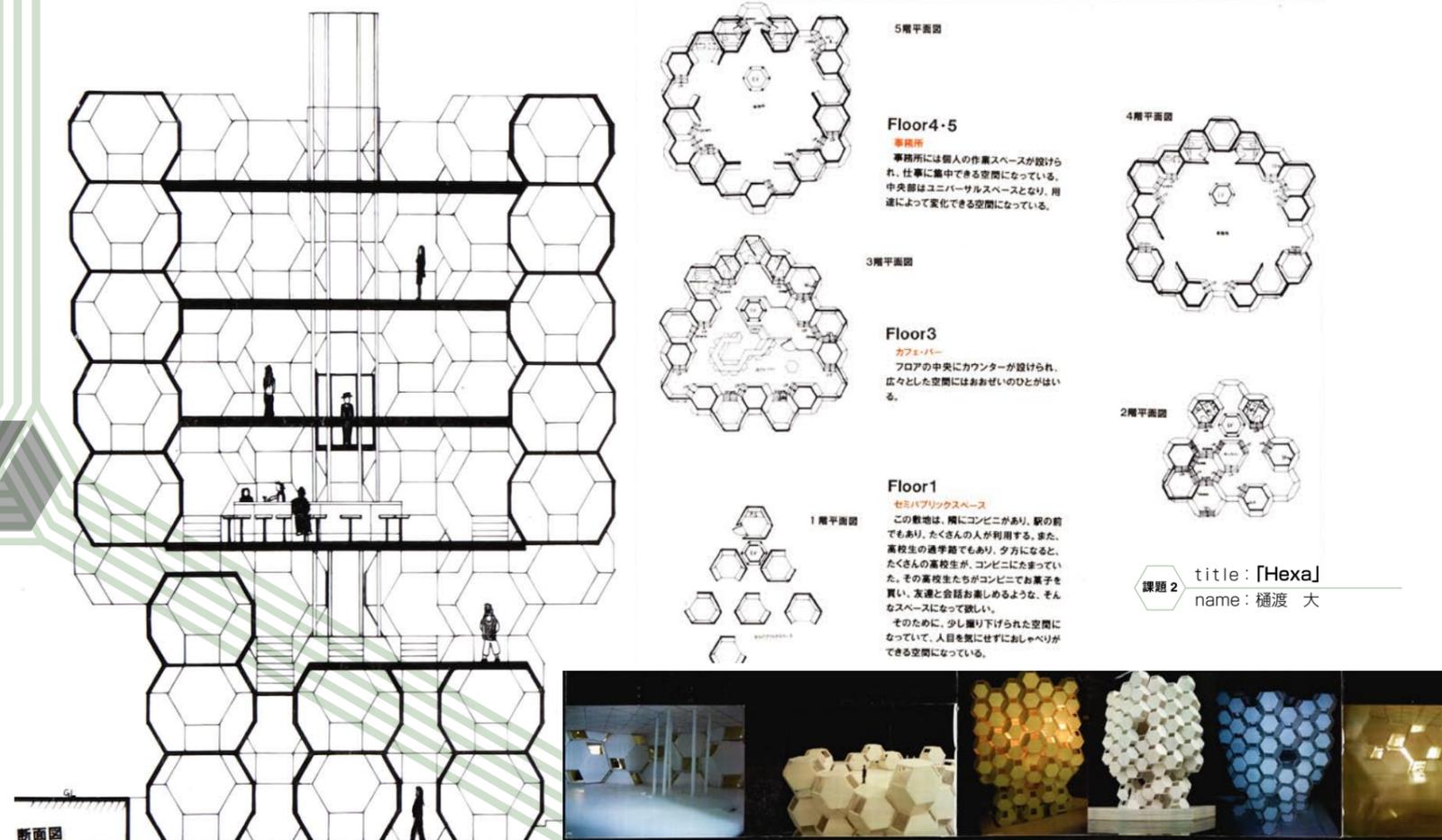


課題 2 title:「GAP」
name: 大月 雄大

■課題 2

「セミパブリックスペースをもつアークスマイルビル」

手稲駅近隣の商業地に街並を活性化し、ビルの付加価値を高めるセミパブリックスペースをもつアークスマイルビル(延べ面積 1,400m²程度)を計画することを求めている。具体的な条件としてセミパブリックスペースと密接な関連をもつ商業スペース(学生が、それぞれ構想する)と貸事務所スペース(450m²程度)をもつこと、構造は、RC 造とすることとしている。提出図面として、配置図、平面図、立面図、断面図、コンセプトスケッチ、模型写真、透視図を A1 版 2 枚以上に盛り込んだものとした。



課題 2 title:「Hexa」
name: 樋渡 大

1 年前期
建築入門演習

■課題

「建築・都市を観察する」

様々な魅力的な建築物や都市空間が存在する小樽市を対象とし、興味を持ったことやモノを調べ、建築物や都市空間の捉え方・見方を養うこと。方法としては

- 1) ①観察する ②調べる ③パネルに表現する ④発表する
- 2) ①観察と④発表は、4人で構成するチーム単位で行う
- 3) ③表現は、チームで十分に協議した後に個人で作成し、4人分を組み合わせてチームの作品とする。

担当教員

- 星野 政幸 教授
- 飯田 雅史 教授
- 伊東 敏幸 教授
- 谷口 尚弘 准教授
- 前田憲太郎 准教授



課題 title: 「北一硝子～小樽での歩み～」
name: 富樫 憲祐



課題 title: 「小樽の財産は道」
name: 竹原 一弥

建築デザインコース 1 年後期
建築デザイン演習 I

■課題

「サヴォア邸のプレゼンテーション」

世界的建築家 Le Corbusier の代表作である「サヴォア邸 (VILLA SAVOYE 1929-31)」のトレース及び模型作製をととして、「建築空間」の平面構成・平面計画法や立体構成法について理解する。最終提出物は、模型とプレゼンテーションボードとする。プレゼンテーションボードには、図面及び模型写真を使って上手に表現すること。

担当教員

- 飯田 雅史 教授
- 谷口 尚弘 准教授



課題 2 title: 「サヴォア邸」
name: 野村 陽輔



1 年後期
建築設計演習 I

■課題

「本学バスストップに併設されたギャラリー」

第1課題は、設計した建築を表現するために必要最低限の設計図のトレースと立体表現の方法を習得することにある。課題は木造住宅で平面図、立面図、断面図をトレースし、その後、立体表現の作図方法を習得するため、アクソメ、パースの作図手法を学ぶ。

第2課題は上述の内容を理解した上で、入学後、初めての建築設計を行う。設定敷地は本学内で、学生は周辺環境を熟知している。規模は50～70m²で、展示内容も学生に決定させている。提出図面は、配置、平面、断面、立体表現を課し、A1サイズ1枚にまとめ、ここではプレゼンテーションの要領も習得することを目指している。

担当教員

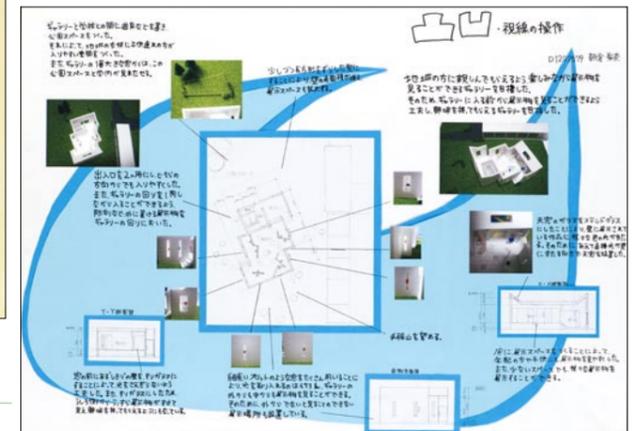
- 鈴木 憲三 教授
- 飯田 雅史 教授
- 久保 勝裕 准教授
- 前田憲太郎 准教授
- 千葉 隆弘 講師

非常勤教員

- 菊池 規雄
- 名古屋英紀



課題 title: 「Natural」
name: 田中 恵美



課題 title: 「凸凹 視線の操作」
name: 朝倉 梨奈

建築エンジニアリングコース 1 年後期
建築エンジニアリング演習 I

■課題 1

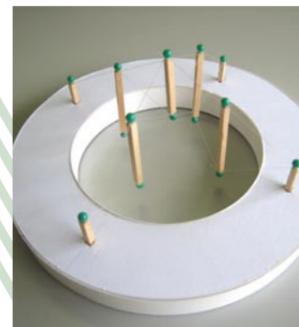
「構造システムの基礎に関する模型演習」

本課題では、建築物において空間を創造するために必要な構造の基礎を理解することを目的に、構造システム模型を作製する。対象とする構造システムは、折板構造とテンセグリティ構造であり、折板構造はA3版ケント紙を、テンセグリティ構造はマップピンとテグスを用いて模型を作製することで、構造システムの基礎を理解する。

■課題 2

「在来軸組工法の構造に関する模型演習」

本課題では、木造住宅の最も一般的な構法である在来軸組工法の構造を理解することを目的に、縮尺1/30の軸組模型を作製する。2階建木造住宅の一部を対象とし、材料にはひのき棒を使用する。在来軸組工法の構造部材は、同形状の部材においても個別の名称が付いている場合があり、模型作製を通じて、各部材の名称や構造的役割を理解する。また、建築設計演習 I で行う木造住宅のトレース課題と同時期に模型を作製するため、木造住宅に対する理解が深まる。



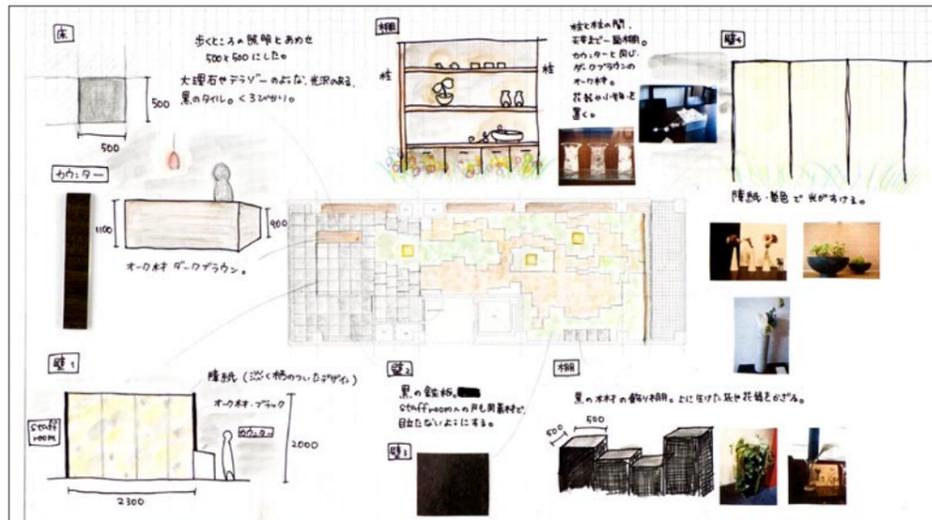
■課題 3

「建築設計演習 I の設計課題に関する模型演習」

担当教員

- 苫米地 司 教授
- 千葉 隆弘 講師

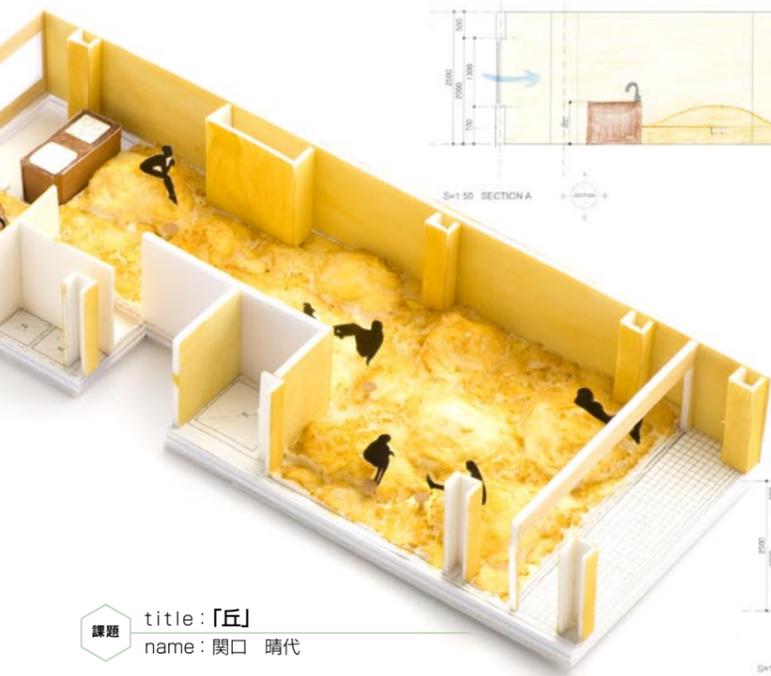
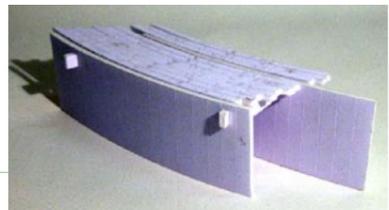




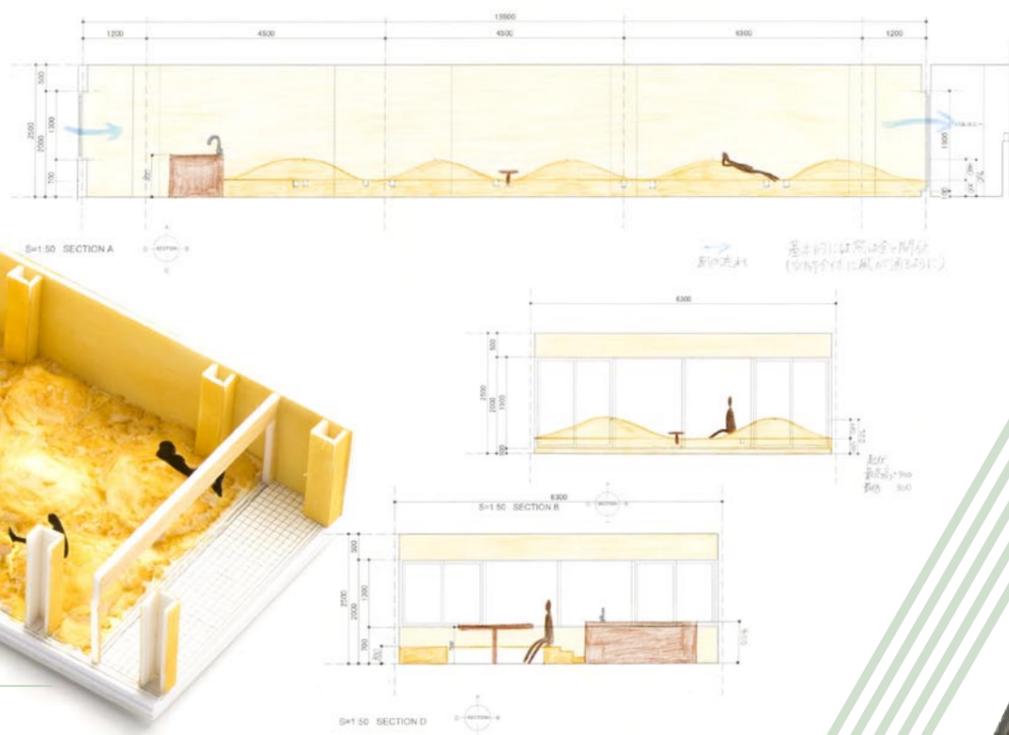
課題 title: 「花畑 インテリア計画」
name: 榎本 薫子



課題 title: 「Degrees」
name: 宮本 聡



課題 title: 「丘」
name: 関口 晴代



建築デザインコース 3年後期 造形デザイン演習

造形デザイン演習では、大学の建築設計課題ではやり遂げることのできない、実寸および体感的造形、デザインを補完する。この演習で繰り返されるスケッチ、モデリング、実寸制作は、「空間」と「もの」を横断する設計デザイン行為そのものである。すでに提出済みの設計課題を指定し、学生自ら設計した空間に置かれる「椅子」を想定し、設計者による特注段ボールを使った実寸の椅子のデザインと制作、そして空間の再デザインをする。プログラムは、設計コンセプトの再認識、メイン空間のスケッチ、パースによる空間の把握とリ・デザイン、空間と椅子のコンセプト構築、1/5スケール模型による検討、実寸スケールの制作(特注ダンボール)、プレゼンテーションシートに至るプロセスを踏む。

担当教員

佐藤 孝 教授

非常勤教員

高橋三太郎

中村 昇



課題 title: 「かげいすーゆーりー」
name: 郡川 和加子

課題 title: 「木の実」
name: 下浦 瑠璃子



建築デザインコース 3年前期 インテリアデザイン演習

■ 課題

「既存マンション空間の活用計画」

札幌市の円山伏見地区に建つ古いマンションの一室を再活用できるような空間計画を考える。計画に当たっては、既存の空間(寸法・スケール)を認識しつつ、各自で決定したコンセプトやイメージに合わせて計画すること、照明及び家具計画、内装計画までしっかり取り組むこと。

担当教員

谷口 尚弘 准教授

非常勤教員

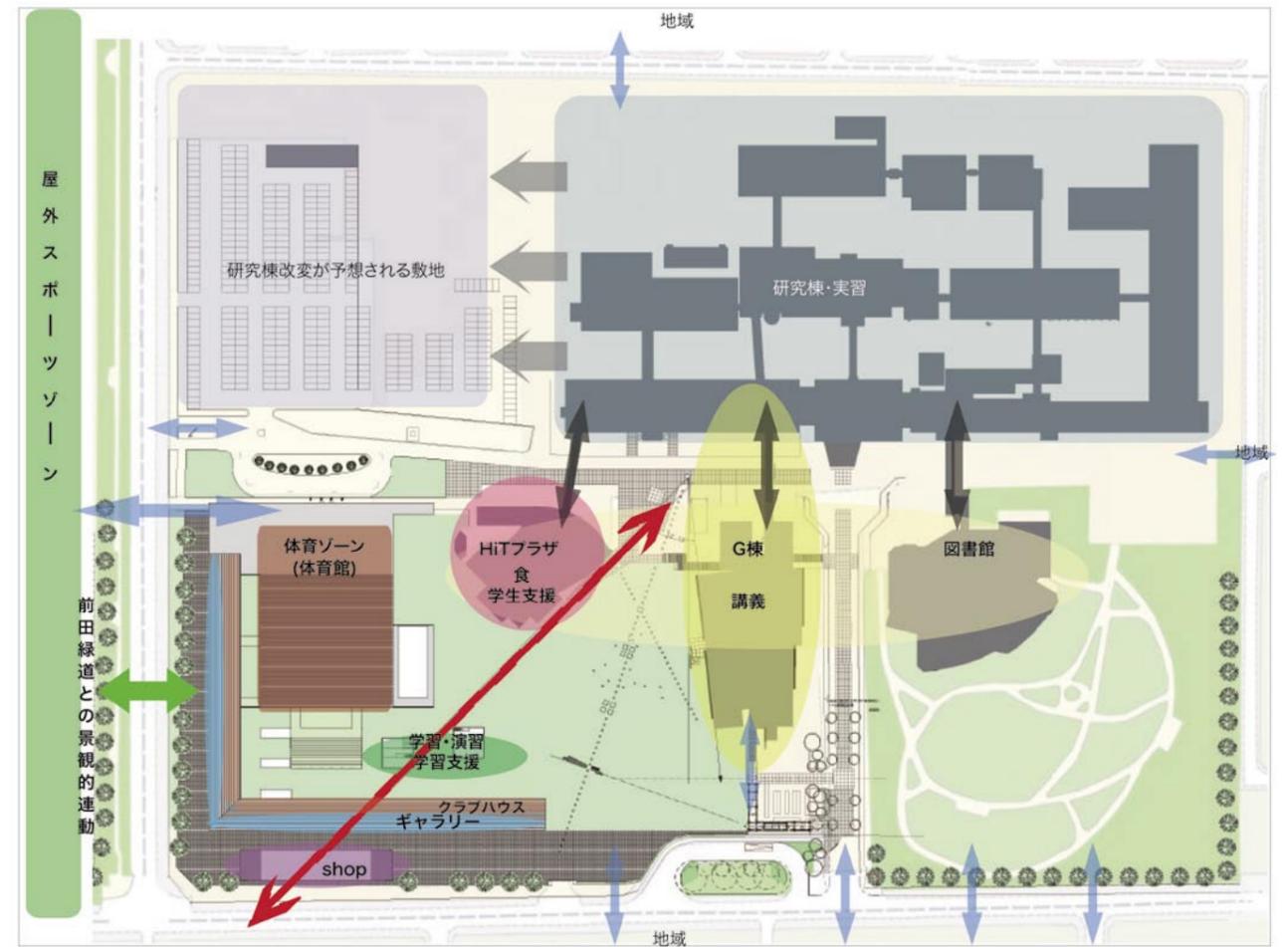
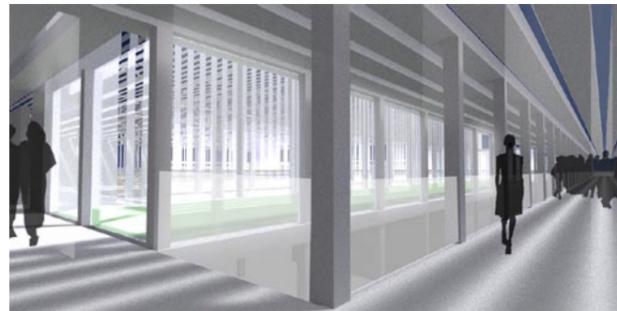
井上 共子

名古屋英紀

<作品のコンセプト>

本学は開校以来となる大変革を行おうとしている。4学部8学科の大転換を施行し、21世紀への生き残りをかけた大学へと変貌を遂げようとしている。それに伴う新キャンパス計画では、24時間、学生を勉強・身体的にサポートし、地域住民ならびに企業との交流が盛んに行われる空間が求められている。

本計画の目的は、上記を基にしながら、特に学生支援施設に着目し本学が元々持っている有利な点をさらに引き伸ばし、一方では不利な点については、現在のキャンパスの現状を整理し、それぞれの施設の問題点を抽出し、今本学で求められる「クロオープン型」のキャンパスを提案するものである。



(図9)マスタープラン図

